

この度、シカゴで開催されました ASCO 2010 に出席にさせて頂き、ありがとうございました。オヘア空港に降り立ち、摩天楼がそびえ立つアメリカ型都市、シカゴのダウンタウンに向かい、今回の学会会場である北米最大のコンベンションセンター、「マコーミック・プレイスコンプレックス」に到着しました。

今回は、Poster Discussion のセッションで、進行胃癌に対する S-1+CPT-11 と S-1+PTX のランダム化第 II 相試験（大阪消化管がん化学療法研究会：OGSG0402）のファイナルレポートを報告しました。いずれのレジメンも期待奏効率には達せず、1 次治療レジメンにはならないという結論に discussant からも”agree!!”と評されました。発表の際には、欧米の先生方から SPIRITS や TOP002 の結果や START trial の進捗を踏まえたうえで、日本における胃癌化学療法の今後の展開に関する多くの質問を受けました。

2009 年の ASCO にて HER2 陽性進行再発胃癌に対する化学療法でのトラスツズマブの上乗せ効果が示された ToGA 試験に関して、今回、近畿大学の佐藤先生より、トラスツズマブの併用を行っても QOL は低下せず改善傾向が示されることが報告されました。その他にも今後の治療戦略の方向性を示すような試験結果が多く報告されました。

今回の ASCO 2010 の出席を通じて、日本や東アジアの胃癌治療に対する欧米の注目の高さを痛感するとともに、世界の臨床腫瘍学の発展を肌で感じることができました。今後も JACCRO をはじめ、様々な臨床試験への積極的な参加を継続していきたいと思えます。